

人類に  
奉仕する  
ロータリー

創立昭和28年1月8日

## TANABE ROTARY



District 2640 田辺ロータリークラブ Club Weekly Bulletin

2016-17年度  
国際ロータリーテーマ  
「人類に奉仕するロータリー」  
-ROTAR SERVING HUMANITY-  
ジョン F. ジャーム R I 会長  
国際ロータリー第2640地区  
福井隆一郎 ガバナー

## 4つのテスト (FOUR WAY TEST)

- 言行はこれに照らしてから  
(1) 真実かどうか  
(2) みんなに公平か  
(3) 好意と友情を深めるか  
(4) みんなのためになるかどうか

例会日 木曜日 12:30  
例会場 紀伊田辺シティプラザ ホテル  
会長 植田 英明  
幹事 柏木 壽夫  
会報委員長 松本 哲  
<http://tanabe-rc.com/>

承認 昭和28年3月2日  
事務所 〒646-0031  
田辺市湊23-6  
TEL 0739-24-2002  
FAX 0739-26-0264  
mail tanabe-rc@helen.ocn.ne.jp



「国際ロータリー第2640地区年次大会」  
-10月23日-ホテル・アゴラリジェンシー堺

●司会者  
新藤整市副会長

●ソング  
紅葉

●ゲスト  
和歌山県立近代美術館  
学芸員  
宮本 久宣 様  
青木 加苗 様

●ビジター

## 11月10日のプログラム

会員卓話  
RI第3ゾーンRRFC  
村上有司会員

## 11月17日は休会です。

## 11月24日のプログラム

会員卓話

畑地 浩会員

## 出席報告

	第3126回	第3127回	第3128回
会員数	86名	86名	86名
出席規定免除会員数	8名	8名	8名
出席計算会員数	82名	83名	83名
出席者	61名	61名	61名
出席率	74.39%	73.49%	73.49%
メイクアップ	14名	11名	
修正出席率	91.46%	86.75%	

## メイクアップ

10月18日 中田吉(田辺はまゆうRC)  
10月20日 木村勝(地区米山記念奨学委員会)  
10月22日 村上、植田英、新藤、柏木(地区大会)  
10月23日 村上、植田英、柏木、新井、福本雅、古谷、濱口、橋本、  
平尾、伊賀、岩本、柏木、木村勝、木村頼、三前剛、宮本、  
長井、中松、野田、大木、田村、和田、山本、横田、  
中田隆、脇村富、山路、河上(地区大会)

## お祝い

会員誕生日 竹本  
配偶者誕生日 近藤千恵子(新治) 木村貴美子(勝次)  
池永久美(康則)  
結婚記念日 廣本、吉田透、稲田太、矢野、溝口、橋本、宮本

## ニコニコ箱

☆和歌山県立近代美術館教育普及課学芸員宮本久宣様、  
青木加苗様、田辺ロータリークラブにようこそ。本日は卓話よろしくお願い致します。……新藤、柏木  
☆和歌山県立近代美術館宮本久宣様、青木加苗様、田辺  
ロータリークラブにようこそ！本日は卓話よろしくお願い致します。……中松、松本、脇村富  
☆先日の地区大会には大勢の御参加ありがとうございました。また、本会議において米山記念奨学会より感謝状をいただきました。本日の例会はやむなく欠席させていただきます。新藤副会長、宜しくお願い致します。……植田英

☆地区大会に御参加の会員様、お疲れ様でした。また、  
新藤副会長には前日の選挙人会議には高級車エステ  
マに乗せて頂き有難うございました。本日の植田会  
長の代行宜しくお願いします。……柏木  
☆植田会長が欠席されるので代理を務めさせていただきます。よろしくお願ひします。……新藤  
☆地区大会に行っていました。大分正常化に近づ  
いたようです。……  
……木村頼、山本、伊賀、横田、濱口、岩本、新井  
☆新藤副会長、がんばって下さい。次年度の為、勉強さ  
せてもらいます。……大木、白井  
☆新藤副会長、「会長職初デビュー」がんばって下さい。  
……木村頼、山本、  
中松、長井、宮本、横田、伊賀、玉置、竹内、稲田太、平尾、  
松本、橋、瀬、山路、脇村富、中田隆、都志見、住山、新井  
☆公民館婚活イベントが無事終わりました。5組のカッ  
プルができました。関西電力:河上所長に大変お世話  
になりました。……新藤  
☆昨日、運転免許の更新に行ってきました。次回の更新  
は5年後ですが青色の免許証です。次回は金色の免許  
証になる様安全運転を心がけたいと思います。・柏木  
☆玉置英人先生、先日はありがとうございました。健康  
が一番だとわかりました。……岩本

## 地区大会 -10月23日-





## お知らせ

### 会長報告 (代理:新藤副会長)

- ・本日は、植田英会長が欠席の為、代理を務めさせていただきます。
- ・10月22日地区大会1日目、村上PG・RRFC夫妻、植田英会長、柏木幹事、私の5名が出席しました。23日の2日目には村上PG・RRFC夫妻はじめ29名に出席頂きました。ありがとうございました。また、親睦活動委員会の皆さん、お世話頂きましてありがとうございました。23日の本大会に於いて、当クラブが米山記念奨学寄付金6000万円達成クラブで表彰され、福井ガバナーより植田英会長が感謝状を授与されましたので披露いたします。後程回覧します。
- ・10月25日の暴力追放決起集会及び街頭啓発パレードは、雨天のため決起集会のみ行われました。決起集会には、植田英会長と社会奉仕委員会竹内委員長と近藤委員が出席致しました。

### 幹事報告

- ・先週発表しました、指名委員会が指名しました役員及び理事候補者以外の候補者の提出が無かった事をご報告いたします
- ・次週11月3日は、文化の日で祝日ですので休会です。また、17日は、都合により例会場が使用できませんので休会となります。11月の例会は、10日と24日の2回となります。お間違えの無いようお願い致します。
- ・11月のロータリーレートは今月と同じく102円です。
- ・地区大会・地区大会記念ゴルフ大会の礼状、米山記念奨学会の感謝状、やおきジャーナル、近隣クラブの会報を回覧します。

## プログラム

### 『美術の起業家 北山清太郎』



和歌山県立近代美術館  
学芸員

宮本 久宣 様(左方) 青木 加苗 様

明治時代に西洋から紹介された絵画技法のひとつに、水彩画があります。水彩画は、現在でも図工の教材として用いられるように、絵具以外は普段身近にあるものだけで描ける技法です。筆や墨に慣れ親しんでいた明治時代の日本人にとって、水彩画は近づきやすい最初の「洋画」として人気を得ました。そして大下藤次郎が著した技法書『水彩画之栞』はベストセラーとなり、多くの若者たちを写生に連れ出すこととなります。和歌山市に生まれた北山清太郎(きたやま・せいтарろう/1888-1945)もまた、水彩画をきっかけに美術の世界に足を踏み入れた若者のひとりでした。上京し、はじめ横浜の知人宅に身を寄せ、仲間たちと水彩画グループを結成します。当時の水彩画ブームは、その専門雑誌『みづゑ』によって日本全国に広がっており、誌面を通じて読者間の交流も行われていました。一読者で

あった北山は、それに倣って自分たちの雑誌も作っていたようです。

その経験を買われてか、『みづゑ』の編集に携わるようになった北山は、急速に編集の実務能力を発揮していきます。主宰者である大下の急逝により一度は廃刊を決めた『みづゑ』は、北山の力によって続刊を成し遂げます。

その後すぐに独立し、自らの雑誌『現代の洋画』を立ち上げた北山は、その中で積極的にヨーロッパの美術を紹介します。時は、大正の足音も近づく明治45年の春、数多くの美術雑誌や書籍が輸入され、西洋の動きがリアルタイムで紹介されつつありましたが、そういった情報に触れられるのは一部の限られた人たちだけでした。北山は洋書から数多くの図版を転載し、日本中に広めることに奔走します。今では当たり前となっていますが、当時はまだまだ貴重であったカラー図版を、北山は自分の雑誌の中でできるだけ多く掲載します。色の再現にも気を配った雑誌は、多くの読者を引きつけたことでしょう。

そうして北山の雑誌の周りには、岸田劉生、木村莊八、高村光太郎ら、若い洋画家たちが集まってきます。外国語が得意な木村や高村は洋書の翻訳を行い、岸田は自分の芸術論を著します。北山はそれらを編集して掲載し、魅力ある雑誌を発刊し続けていきます。あわせて画材の取り次ぎ販売を行うなど、美術に関わる新しい事業をいくつも興しています。

一方、洋画家仲間たちは、新たに「フェウザン会」というグループを結成します。絵心はあったものの洋画家ではなかった北山は、実務者としてその会を支え、会の機関誌を発行しています。そして彼らのグループ展は、西洋の新しい風を感じさせる表現に溢れていましたが、その新しさゆえ、賛否両論、さまざまな意見が新聞紙面を賑わし、彼らの活動は注目を集めるようになります。北山はこの展覧会の運営も行い、仲間の作品写真を掲載した目録を発行するなど、裏方として活躍します。その献身ぶりは、彼らのあこがれの画家、ファン・ゴッホを支えたパリの画材商ペール・タンギー(タンギー親爺)になぞらえて、ペール北山と呼ばれるほどでした。

その後も北山は、数多くの美術雑誌を発行し、日本画の美術団体に洋画部門を新設して運営するなど、洋画に関わるマルチプロデューサーとしてさまざまな仕事を手がけます。しかし第一次大戦によるインフレと紙不足も重なり、雑誌の発行は次第に困難となりました。そして美術の仕事に携わっておよそ10年、その活動も一段落したとき、北山は評判を耳にした輸入アニメーションを見に出かけます。そして一観客として興味を持っただけでなく、起業家としての才能があった北山は、それを自ら作れないかと考えたのでした。試行錯誤の末、ようやく第1作を完成させたのがちょうど100年前の1917(大正6)年5月。この年、3人の日本人が初めて、国産のアニメーションを発表し、北山もそのひとりとなりました。今の日本がアニメーション大国と呼ばれるようになったその発端に、和歌山生まれのひとりの起業家がいたのです。